

MEEET

Miyako Environmental Education Times

発行：環境教育プロジェクト

平成26年(2014年)9月1日(月)

第74回の「環境教育ミーティング」は長岡京市の後援をいただき、長岡京市立中央公民館と共催で、7月17日(木)に開催しました。

講師の檀浦正子さんには、陸域の30%は森林であり、炭素固定に大きな役割を担っていること、森林は光合成によって二酸化炭素を吸収し酸素を放出するが、同時に生きるために呼吸を行うので、我々と同じように酸素を吸収して二酸化炭素を放出していて、この差引が森林が実質の吸収した炭素量となること、我々が年輪として目にするものはこの樹木の一年の活動の結果であることなどをスライドと板書で話していただきました。

また、世界の様々な森林を紹介していただき、このような森林の炭素循環の働きに焦点をあて、現在行われている研究などを紹介していただきました。

参加者の感想

1

今回、様々な森林や、樹木のことについて教えていただき、大変興味深いお話を聞くことができました。国や地域によって森林にも個性があるということを知り、日本はもちろん、世界のいろんな森林に行き、違いを直接見て、樹木についてもっと知ってみたいと思いました。また、森林は酸素を供給し、文明の発展にも欠かせない重要な存在であることを再確認し、守っていかなければならないと感じました。次回も楽しみにしています。

2

植物ってすごい化学反応をおこなっていることがよくわかりまし

た。

木は表層も中心も死んでいて、表層から少し中の一部だけが生きているという話がとても不思議でした。木が死ぬとはどういうことなのでしょう？枯れていくとはどういうことなのでしょう？というところを考えさせられるお話でした。

3

檀浦先生のお話を伺うまでは、森林は光合成によって二酸化炭素を吸収し酸素を放出する、だから地球の温暖化防止に大きな働きが



あるとの単純な認識でしたが、我々人間同様、森林も生きるために酸素を吸収し、二酸化炭素を放出する働きもあり正確には、この放出と吸収の差が森林の吸収炭素量だということを知りました。まさに森は生きている。

あの静かな講義の口調から想像ができませんが、フィールドでの先生は男性に負けない行動力で世界各地の森林に分け入り、高い木に登り、土をなめされているのでしょね。

女性学者としてますますご活躍くださることを期待します



タワーを用いた二酸化炭素 (CO₂) 吸収量測定の様子。森林の樹冠より数m～十数m 上で測定した様々な観測データからCO₂ 吸収量を求めます。(森林総合研究所 平成24 年版 研究成果選集より)

の森の樹種の多さを認識しました。日本庭園も多くの種類の木を植樹し、その変化を楽しみます。

「タワーフラックス観測」は初めて聞いた言葉です。森の中に高い塔を立てて、CO₂ 吸収の観測を

4

世界の森の樹種の数に比べて、日本の森の樹種は非常に多様であることを聞いて驚きました。戦後、杉、檜などが営利目的で植林されたこともあります。改めて日本

されているとのこと。日本に数少ない塔の一つが山城にもあるようです。

お話を聞きながら「もののけ姫」を思い出していました。

深夜のBSで、植物にもモーツァルトの音楽を聞いたり、危機を仲間知らせる能力を持っているなどの研究がなされているのを見て、夢が膨らみました。少々「花子」の世界になりますが、桜の花が一斉に咲くのは誰か、否どの木かが合図をしているのではないかと想像しています。

「そろそろ咲くぞー。準備はいいか？」

